

里ちゃんだより

里庄町教育委員会

電話 0865-64-7212



教育長あいさつ

里庄町教育委員会 教育長 杉本 秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になりまして心より感謝申し上げます。先日の教育を考えるつどいでは、多くの方々に参加をしていただき、誠にありがとうございました。「地域とともにある学校」～これからの里庄町の学校について考えてみませんか？～と題して、講師の方にご講演をしていただきました。その中で、学校が力を発揮しながら、保護者の皆様地域の皆様のお力をいただき、地域の宝である子どもたちを育てていくことの大切さを教えていただきました。



教育を考えるつどいの様子

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

里庄町の子どもの学力は？（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）

全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生）全体としては、ここ数年、全国平均と比べてよい年もあれば、やや低い年もあり、特に大きく心配する状況は見られません。これからも、一人ひとりの子どもたちがもっている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

岡山県学力・学習状況調査（小学3年生～5年生、中学1年生～2年生）では、小学校は、国語は県平均と同程度でした。算数は県平均を上回りました。中学校は、国語は県平均と同程度か上回りました。数学はどちらの学年も県平均より上回りました。英語も県平均よりも上回りました。

今後も、子どもたちのよさや頑張りを的確に認め、自己肯定感を育みながら、一人ひとりの子どもたちがもっている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

○よくできているところ：漢字・計算など基礎的な内容

★課題と考えているところ：目的に応じて文章を書いたり、説明したりすること。

里庄町では小学校と中学校が連携して、学力向上の重点目標を次の3点に決めて、充実を図っています。

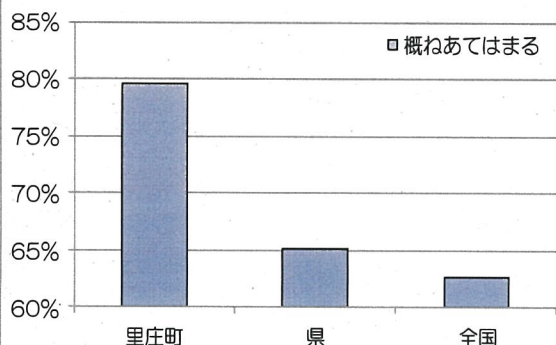
①基礎・基本の徹底 ②表現力の育成（書く力） ③家庭学習の充実

今後も、学校・家庭・地域で力を合わせ、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成に全力で取り組んでまいります。

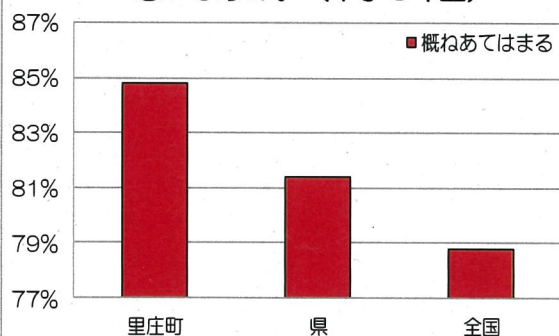
（文責 指導主事 天野正彦）

里庄町の子どもよさは？（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）

今住んでいる地域の行事に参加していますか。（小学6年生）



自分には、よいところがあると思いますか。（中学3年生）



里庄町の小学6年生は、岡山県や全国の子どもと比べて、「今住んでいる地域の行事によく参加している。」と、回答しています。また、里庄町の中学3年生は、「自分には、よいところがあると思う。」と、回答した子どもが多いという結果になりました。地域の行事に参加することで、様々な人と触れあう機会が増えたり、体験活動を増やしたり、社会と自分との関係について考えることができます。これは、子ども自らが学ぶ目的や意義を考える上で、とても大切なことだと考えています。また、自分のよさに気づいている子どもが多いということは、自分に自信をもち、よさを発揮することで、よりよく成長することができます。さらには、周りの人にも優しく接しながら、自分の生活を豊かにしていくことにも繋っていくことだと考えます。自分自身を高めていくことはもちろんのことですが、周りの人と支え合いながら成長していくことのできる、知徳体のバランスのとれた、たくましい子どもに育ててほしいと考えています。

＜その他の項目で、全国平均と比べて、町内の小学6年生・中学3年生が

ともにポイント数が高かった内容＞

○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

○ 将来の夢や目標をもっていますか。

（文責 指導主事 天野正彦）

～浅口市通級指導教室「あすなろ教室」が利用できるようになります～

10月26日に、浅口市役所で、浅口市通級指導教室「あすなろ教室」の里庄町利用協定調印式が行われました。浅口市通級指導教室「あすなろ教室」とは、集団の中で友達と一緒に活動することが苦手だったり、友だちとのコミュニケーションがうまくとりにくかったり、落ち着きがなく学習に集中できにくかったりする小学生が通う教室です。安心して通える場で、一人ひとりに合わせた指導を受けながら、周りの人とのかかわり方や感情のコントロールの仕方などについて学んでいきます。

この度の調印式を受けて、平成31年4月より、里庄町の児童も本施設を利用できるようになります。「あすなろ教室」に通うことを希望する児童が、本施設での学習や体験活動を通して、自分の長所をしっかりと伸ばしてほしいと願っています。

（文責 指導主事 天野正彦）

「書く力」「話す力」を伸ばす指導

教育の今日的課題として、児童が自分の考えを広げたり深めたりすることや、考えたことや分かったことなどを適切に表現することができるように支援を行うことが求められています。本校児童の実態を分析すると、自分の考えや思い、分かったことなどを筋道立てて書く力や、相手に伝わりやすく話す力といった、表現力が十分に身に付いているとは言えません。

このことから、児童の「書く力」と「話す力」の育成が重要であると考え、本校では今年度、国語科を中心にして指導方法を改善する研究に全校をあげて取り組んでいます。研究主題は次のとおりです。

自分の考えを表現できる児童の育成
～国語科の学習を中心に、書く力、話す力の向上を目指して～

○取り組んでいること

【国語科の授業で】

- ・児童が目的をもって主体的に学習できるように、単元の学習計画を明確に示す。
- ・書く活動を意図的に設定する。

【国語科の授業以外で】

- ・朝の学習等のドリル学習で、書くことに慣れるようにする。
- ・校内掲示で言語環境を整える。
- ・家庭学習で日記を書くようにする。

【学校生活全般で】

- ・学習規律の定着や、家庭学習の充実により、学習習慣が確立できるようにする。
- ・家庭と連携し頑張りカードなどを活用して、基本的生活習慣を確立できるようにする。



教師同士で授業を見せ合って授業力を高める

(文責 里庄西小学校長 松原 修)

「里中生徒会による小学校交通出前講座」開催

里庄町では、以前から小中が連携した様々な取組を行ってきました。その一環として、里中生徒会が作成した交通安全啓発のためのプレゼンテーションを東西の小学校で開催しました。

まず、10月15日(月)には、里庄東小学校の児童朝礼の中で時間をいただき、里中生徒会の代表者3名が、出前講座を行いました。(里庄西小学校は、10月29日(月)開催。)

3名の代表者は、

- 1 自転車乗車時のヘルメット着用
- 2 交通ルールの確認

について、具体的な写真を提示しながらクイズ形式で分かりやすく説明しました。東小の児童たちも、クイズに積極的に参加し真剣に考え聞いていました。

2年前里庄中学校では、悲しい生徒の交通死亡事故が起きました。その後、2度と辛い思いをする人が出ないようにと、里庄町では小中が連携して学期始めの月を交通安全月間として、交通安全ののぼりを立てたり、町内での交通指導をしたりしてきました。

まだまだ、交通マナー等では課題も多く、町内の皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あるかとは思いますが、今後も交通安全意識の高揚とマナーの徹底を目指して、小中で連携して進めたいと考えています。



交通出前講座

(文責 里庄中学校長 田原直樹)

地域と連携した体験学習の取り組み

里庄中学校長 田原 直樹

里庄中学校では、平成28年度から1・2年生を中心に、朝の会が始まるまでの10分間を使って、山陽新聞のコラム「滴一滴」の書き写し学習を行っています。これは、コラムをノートに書き写すとともに、内容の要約等を行います。この学習によって、今まで知らなかった言葉や言い回し、様々な表現方法にふれることができます。

近年、全国学力・学習状況調査等でも、生徒の読解力が落ちていると言われていますが、本校では少しずつですが効果が現れています。

また、この学習は集中力を高める効果もあり、落ち着いた雰囲気の中で1時間目の授業を迎えることができます。「継続は力なり。」これからも、より充実した取り組みにしていきたいと思ひます。



書き写し学習の様子

異学年交流の取り組みについて

里庄東幼稚園・小学校長 今井 豊



園児と5年生児童との交流の様子

里庄東小学校では、次年度の入学を前に、異年齢での関わりを意図的に設定して、幼稚園児・保育園児と関わっています。先日は、竹馬・こま回し・ホッピングなどの遊びを、園児は1年生と一緒にやり、コツを教わりながら仲良く遊んでいました。

また、5年生は園児と「つばきの丘運動公園」にハイキングに行き、自然の中で遊んで交流を深めました。この関係は、次年度には、1年生と6年生という学年になるため、小学校生活が始まった時にも、顔なじみがいて安心できるという効果があります。

こうして、小学生にお世話になることが多い年長さんも、幼稚園に帰ったら、上手に年少さんの世話をしています。つまり立場によって子どもの様子も変わります。

子どもたちのおかれている環境の変化により、意図的に異学年交流の場を設定しないと、その機会はどんどん減っています。ファミリー給食も含め、異年齢での関わりを大切にしたいと思ひます。

保育園児・幼稚園児と小学校児童と交流 里庄西幼稚園・小学校長 松原 修

本校では、1年生と、かすみ保育園・里庄西幼稚園の年長児とが交流会する「なかよし会」が行われています。

本年度は1学期にそれぞれの園を訪問し、国語科で学習した「おおきなかぶ」の劇を発表したり、自分たちで計画した遊びを一緒にしたりしました。2学期には、生活科の学習「あきたんけん」で見つけたものを使って遊ぶ「あきランド」を開き、園児を招待して楽しみました。1年生にとっては、成果の発表の場であり、園児にとっては、小学校の学習にふれ、進学への期待をふくらませる機会の一つとなっています。

なお、平成30年度から里庄町では、保幼小接続カリキュラムがスタートしました。このカリキュラムは幼児教育と小学校教育相互の良さをつなげ、保育園や幼稚園での「学びの芽生え」から、小学校（主に第1学年）での「自覚的な学び」へと円滑な接続ができるように作成されたものです。里庄西小学校では、かすみ保育園・里庄西幼稚園との接続カリキュラムに沿って進めています。



1学期のなかよし会での園訪問の様子